

# 2023年3月24日 第3425回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 前田 会長

<斉 唱> 「我等の生業」 ソングリーダー 佐久間博一 会員

<ゲスト紹介> \*横須賀建築探偵団団長 富澤 喜美枝 様

<上田 会員より転勤による退会のご挨拶>

<長谷川会員より転勤による退会のご挨拶>

<会長報告> \*ガバナー事務所より

・2023年メルボルン国際大会地区ナイトのご案内について

5月28日(日)18:00~20:00

会費:1人14,000円

会場:ザ・ビクトリアホテル・メルボルン内 レストラン「Mister Munro」

<委員長報告> \*ピンクリボン運動実行委員会 加藤 副委員長より

ピンクリボン講演会(5月14日)のお知らせ

<幹事報告> \*週報・横須賀南西RCより受領

<出席報告> \*出席委員会 田村副委員長より3月24日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
115名	104名	71名(8名)	33名	10名	77.88%

<ニコニコ報告>

- ・松本 明、比 護、大野 健、勝 間、小山 隼、福 西、八 卷、田 村、藤 村、高 橋、鈴木 豊、田 邊、田 中、齋藤 眞、澤 田、三 堀、江 沢 各会員  
横須賀建築探偵団団長 富澤喜美枝様 本日は横須賀RCにお越しいただき有難うございます。卓話も大変楽しみにしております。宜しくお願いします。
- ・三 役 4月8日(土)、メルキュールホテルにてIMが開催されます。よろしくお祈りします。
- ・中村 備、新倉 良、江 口、谷 萩 原、山 下、飯 塚 各会員  
3月22日、第2回目の6番テーブルミーティングをアマルフィで開催しました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。前田会長、瀬戸幹事、三宅さんご出席ありがとうございました。中村清乃会員の手配で大変お世話になりました。
- ・上 田 会員 4月1日で転勤となりました。短い間でしたが大変お世話になりました。皆様のご健勝とご活躍をお祈りします。私も頑張ります。
- ・長谷川 会員 この度本社へ移動することになりました。大変お世話になりました。格式と伝統のある横須賀ロータリークラブに在籍出来て幸せでした。皆さまのご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。
- ・椿、大 石、前 田、小山 隼、加藤 備、杉 浦、長 島、南、中村 備、高 橋、小 平、田 邊、猿 丸、徳 永、齋藤 眞、谷、松 岡、江 沢、笠 木、上 林 各会員  
WBC侍JAPAN世界一おめでとう!! 準決勝、決勝はハラハラ、ドキドキしましたね~! やっぱ野球っておもしろいですね!
- ・石 田、高 橋、梁 井、兼 城 各会員 桜が美しく見頃を迎えていますね! 皆さん春をお楽しみください。
- ・松本 備 会員 3月18日、(社)横須賀市歯科医師会100周年記念式典無事終わりました。7月以降は例会にももう少し出席できると思いますので宜しくお願いいたします。

<卓 話> 「万代会館が伝えること」

三つのパートでお話いたします。

一つ目は「横須賀建築探偵団」の紹介、二つ目は市立万代会館のご案内、最後に万代順四郎(まんだい じゅんしろう)について(順四郎を育てた背景、順四郎自身のこと)お話しします。

#### ◇横須賀建築探偵団について

では、まず横須賀建築探偵団についてご紹介いたします。横須賀建築探偵団は「建物から地域の歴史を学ぶ」ということを目的に、平成4年に発足し今年で30年を迎えました。現在団員は11人で多少の入れ替わりはありますが当初から人数はほぼ変わりません。建物が語る地域の歩みや、関わった人や時代を知ることが探偵団の活動の目的となっています。ホームページでは「まちの記憶」「アングル」「活動記録」やニュースを毎月更新しています。



#### ◇横須賀市立万代会館のご紹介

では次に、横須賀市立万代会館のご紹介です。横須賀市津久井の市立万代会館は令和元年9月24日に横須賀市重要文化財に指定されました。一度は横須賀市施設適正化計画で廃止の筆頭に上がりましたが、多くの市民や学識者の方々からの存続を願う声が上がリ、保存活用に市の方針が転換されました。現在は耐震施工などに関する準備のため建物内は使用できませんが、土、日、火曜日は庭園を開放していますので庭から室内を見学することはできます。(地図)場所は京急津久井浜駅から徒歩5分ほどのところにあります。(図面)万代会館の建物は昭和3年に登記されていますが、建築された正確な年は分かりません。廊下のガラスが昔を伝えています。建物は数寄屋風茅葺で、雁行(がんこう)という配置で、かつては海が望め、南に向かってどの部屋にも光が入り、どこからでも庭を楽しむことができ、夏の保養には適していたと思われませんが、冬は寒かったのではないのでしょうか。

次に万代順四郎を育てた背景についてについてお話しします。今は何でもパソコンで検索すれば手軽に知ることができますが、万代順四郎についての記述はごく少ないのですが、順四郎の生き方が見直され、万代会館を見学に来た人からも投稿がされるようになってきました。地の塩としての生き方が改めて現代の世の中で必要な人物と感ぜられるようになったのではないかと思います。

お手元の年表にありますように銀行家として知られる万代順四郎は1883(明治16年)、岡山県勝田郡勝間田村(現在は勝央町、姫路から姫新線で津山の少し手前)に農家(中農)の八郎治、たけのの次男として生まれました。兄は惣十郎、弟は重郎と言います。順四郎の祖父が知人の借金の保証人になったことから莫大な借財を背負ってしまいました。この苦境を跡取りである八郎治、たけの(順四郎の父母)の努力で乗り越え田畑を取り戻しましたが、家計は楽ではありませんでした。

母たけのは信心深い仏教徒でした。その生き方は「正直に過ごす。常に感謝する。無駄をせず必要なことでも儉約に努める。人に迷惑をかけない。朝は早起きしよく働き、夜は早く休む。」を信条にしていたそうです。順四郎が青山学院で学ぶために東京へ発つとき「正直に過ごせば鬼はいない。体を大切に勉強なさい」との言葉を贈っています。父は昭和5年、母は翌年に亡くなっています。

八郎治の長男惣十郎は農業を継ぎましたが、やがて勝間田村役場に勤め、助役時代を経て、昭和12年9月6日から同14年9月30日まで村長を務めました。兄は苦学の順四郎にたびたび援助しています。のちに体をこわした惣十郎が一時津久井の家に療養に来ることになったとき、現在の椿の間と言われている1棟を増築して迎えています。順四郎の弟、重郎は北海道に渡り十勝、池田へ農業開拓として入植、その後も数々の仕事を行いました。万代会館を市に寄贈した際の遺族代表が重郎の次男重則さんです。重則さんは昭和2

年釧路で生まれました。子どものなかった順四郎から養子にとの話もあったそうですが、後に徴兵で満州に行った兄が沖縄で戦死したので「父が断ったので自分が養子に行かず後を継ぐことができよかった」と話されました。重則さんも地域への貢献が高く評価され、議員へと再三押されたそうですが、父の「利害が生じるから商人は政治と関わってはいけない」との教えを守り、政治には関わりを持たなかったとのこと。北海道に暮らす重則さんのお宅へは探偵団で2回お話を伺いに行きました。

#### ◇万代順四郎のこと

温厚で努力型、誠実で人のためになることを信条に生きた万代順四郎は、地元の勝間田農林学校から明治34年青山学院中学校部4年に編入しました。青山学院を選んだ理由は働きながら勉強ができること、外国人宣教師から英語が学べることで、卒業後は中学の英語教師になれるということでした。入学翌年には三田教会の三谷雅之助牧師により洗礼を受けキリスト教徒になり、晩年まで篤い信仰を持ち続けました。在学中はありとあらゆるアルバイトをしていました。

青山学院時代は、苦学しながら何事にも努力する順四郎は次第に教師からも目をかけられるようになり、当時の学院長本多庸一は苦学生である順四郎を大変かわいがり、順四郎も本多学院長を人生の師として敬慕し人格形成に影響を得たとのこと。本多院長は「マンになること」マンとは人間性を大切にしたい人格形成を学び紳士をつくることを中心として教育をしていたとのこと。

順四郎は苦学して卒業を迎えながら、就職先がなかなか決まりませんでした。勉強する時間を惜しんでアルバイトをしていたため成績は良くなかったそうです。就職浪人中には神田の簿記学校に通っていました。後に銀行経営の基礎となる合理的に経済を学んだ大切な時間となったと言えます。卒業から5か月過ぎたころ1907(明治40)年、入行にあたって英語と日本語で文章を書くという試験があり9月三井銀行に就職しました。1914(大正3)年、女子学院出身のキリスト教徒、広瀬トミと築地の精養軒で結婚式を挙げました。トミは勝間田村の隣、津山の出身で、父広瀬平治郎はキリスト教徒で日本棋院から名誉棋士8段の称号を受けており仲子夫人も女流棋士でした、順四郎は結婚後に囲碁に親しみ始めたようです。

#### ◇銀行家・実業家として

三井銀行は1683(天和3)年、江戸で創業した幕府御用達三井両替商に始まり、江戸・京都での越後屋呉服店が母体です。維新後は政府とのつながりを深め三井財閥を形成していきませんが、三井銀行は三井系企業への資金調達が主な柱でした。1932(昭和7)年2～3月に血盟団事件(三井合名会社理事長団琢磨などが暗殺されたテロ事件)、同年5・15事件(犬養毅暗殺などの軍部中心の事件)、昭和11年2月には2・26事件(高橋是清暗殺など青年将校が立ち上がったクーデター)が起こり、世の中が変革してきました。三井財閥も経営の転向をせざるを得なくなり、今までの番頭経営から経営陣を一変、中上川彦次郎、池田成淋という専門経営者による経営より「企業の社会的貢献」も含め近代的な銀行を目指しました。二人の経営者はいずれも士族、慶應義塾卒、海外留学、のちには日銀総裁や閣僚を務めるなど経済界のエリートでした。次に経営を任された順四郎の出自は中農、学歴はミッション系の青山学院高等科卒で現場畑出身、異例と言えました。それほど変革が求められたということでしょう。順四郎は横浜、大阪、神戸、下関、名古屋などの支店勤務、1923(大正12)年には支店開設準備のためロンドンへ出張もしました。英語教師を目指して勉強していた語学力も力になったと思います。そしてその誠実な働きは信用を積み重ねていきました。順四郎の生き方の根底にある母の教え「人のためになること、正直に生きること」と、青山学院での本多院長の教え「平和と博愛」、米山梅吉の「倫理観」を信条とする順四郎の理念が経営に必要とされる時代となりました。1937(昭和12)年2月、54歳で取締役会長に就任しましたが、この年7月には日中戦争が始まり太平洋戦争への道へと進むという。大変な時に三井銀行のトップを任されることになりました。この年に、トミ夫人の療養のために求めたのが現在の「市立万代会館」でした。

太平洋戦争中の1943(昭和18)年、順四郎は自ら企画し国内銀行の結束を主張して三井銀行と第一銀行を合併し、日本最大の民間銀行、帝国銀行が生まれると頭取を務めました。戦費調達の舵取りという重要な役割がありました。太平洋戦争を含む約9年間、1946(昭和21)年に帝国銀行を辞任するまで、日

本の一大事の時代に金融界のトップという重責を担っています。帝国銀行は戦後解体して旧三井系の(新)帝国銀行と第一銀行とになりましたが、1954(昭和29)年に帝銀は三井銀行の名前に戻りました。

麻布笄町の自邸は東京大空襲で焼失、一時トミ夫人の実家に住んで銀行業務を行っていましたが、1947(昭和22)年公職追放令により財界を引退、津久井の万代邸で自給自足の暮らしに入りました。二人だけの津久井での暮らしは人生で一番幸せな時だったのではないのでしょうか。追放令は1951(昭和26)年に解除されました。

### ◇ソニーと万代順四郎

盛田昭夫と井深大の出会いには第二次世界大戦の劣勢を挽回するため、新兵器の研究をしている戦時研究会でした。戦後、井深が自分たちの持っている技術を世の中に役立てたいと「東京通信研究所」の看板をあげたのは1945(昭和20)年1月。当時、盛田は東工大の講師をしていましたが公職追放でやめることとなり二人は会社を立ち上げることになりました。銀行家の知人から応援を求められた当時(新)帝国銀行会長だった万代は援助を引き受けました。イエス・ノーをはっきりする万代が引き受けてくれたことで協力者の賛同が集まり1946(昭和21)年5月7日「東京通信工業」は設立式を迎えました。井深38歳、盛田25歳でした。ところが戦後の預金封鎖などで資金繰りに奔走することになり、盛田は応援者の一人である万代を帝銀に訪ね、借入れを頼んでの帰り際、万代から「君も金を借りに来るようになったとは、ずいぶん大きくなったものだね」と言われたそうです。万代が三井銀行名古屋支店勤務当時、創業300年という酒造業盛田家とは親交があり、昭夫のことを小学生のころから可愛がっていたということで、息子が一人前になったように感じてうれしかったようです。

1947(昭和22)年5月、万代は公職追放となりましたが、井深と盛田のたつての願いで相談役に就きました。1953(昭和28)年には仲間として会社を育成しようと会長に就任。「大名が御家人くらいに転落したようなものなのに引き受けていただきありがたい」と当時の前田多門社長は礼を述べています。万代にとってソニーは可愛い息子の一人だったようです。また後進の育成がもう一人の息子に対する愛情の表れで「万代奨学金」のもととなる寄付金を母校青山学院へ寄贈しています。「営利会社であるから、利益を挙げなければならぬが、いつでも世の中の役に立つことを考えてほしい」といつも口にしていた言葉として今も受け継がれています。

### ◇津久井の暮らし

津久井での生活はトミ夫人と二人、自給自足、作物は土が肝心と堆肥作りから始めて収穫を手にする穏やかで幸せな日々だったと思われます。訪れた人に収穫した野菜などを持たせ、聖書に親しみ、土に親しみ暮らしていましたが、前立腺肥大を患い東京通信病院で手術を受けました。一時快方に向かいましたがブドウ球菌による急性肺炎にかかり1958(昭和34)年3月28日、75歳9か月で帰らぬ人となりました。トミ夫人は津久井で暮らし、昭和53年5月9日に亡くなりました。トミ夫人の遺言により、土地5,580㎡(1,688坪)、家屋213㎡(64坪)、土地建物と不動産の保全・管理のために運用する目的も含めた有価証券(ソニーの株券)35,500株が横須賀市へ寄贈され、市民のための文化施設として改修し昭和55年から市立万代会館として広く利用されました。

### ◇万代会館が伝えていること

どんな境遇にも真摯に向かい合い、その状態を受け入れて常に前向きにできることを全力で行う。母の教え、紳士の心得などを実践し、激動の日本の経済界を地の塩となって支えた。その生き方が万代会館を通して伝えられるのは「人間力」の大切さであり、同時に、今の横須賀の奥座敷として隠れた横須賀の歴史的な一面を発信する建物としての価値、それをも大切に早く活用できるようにしていただきたいものです。

今日のお話の結論を申し上げますと万代会館が伝えるのは「人間力」ということになろうかと思えます。最近の話題はWBCですが大谷選手の人的魅力が全力で試合に臨む姿と同時に人々を魅了しています。また、ヌートバー選手の「年長者を尊敬すること、時間を守る、みんなと仲良くする」という教えの通り全力で戦う姿と同時に人間力の魅力を発揮していると思えます。



「人のためになることをする」母の教えを信念として心に持ち、銀行家・実業家として日本の激動期を誠実に冷静に、全力で決断、実行してきた万代順四郎から学ぶことはたくさんあると感じます。判断力の正確さと実行力、根底にあるのは母の教えと青山学院の人間教育によって培われてきた誠実な生き方が形として残る万代会館。順四郎の生き方が建物を通して伝えられていると思います。



<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 山田 哲也